

ドイツのトルコ系移民

會田 光穂





なぜトルコ系 移民を取り上 げるか

- ドイツの移民の中で一番大きい割合を占める
 - 政治的難民ではなく、経済的な移民を取り上げることにより、日本の外国人労働者受け入れに関する示唆を得る
 - イスラム教国であり、ドイツ国内での統合の課題が大きい
 - トルコ、大好きなので...(今回もイスタンブール乗継でした。)
- 上の写真は2015年、ベネチア視察後^^

「勝てばドイツ人、負ければ移民」



写真の引用元 The Asahi Shinbun GLOBE+
<https://globe.asahi.com/article/11763744> 2019.8. 18

エジレ選手の引退

- トルコ移民2世としてドイツに生まれる
- プロサッカー選手となったのち、ドイツ代表となるため、トルコ国籍を破棄
- 2014年ブラジルワールドカップでドイツ優勝に貢献
- 2018年5月、トルコ大統領選中にエルドアン大統領と記念写真を撮影
- 同年8月、ロシアワールドカップにおいてドイツ1次リーグ敗退
- 試合結果と試合前の「政治的行為」が相まって批判が殺到
- 今後の代表入り辞退を表明「民族差別と軽蔑を感じた」と声明を出した。

ドイツと外国人労働者①

- 第2次大戦後、西ドイツが高度経済成長迎え、労働力を外国人に求める。
- 1950～60年代にトルコを含めた8か国と協定を結び、労働者(ガストアルバイター)を受け入れ
→あくまで出稼ぎ一時的な労働力を想定
- 1973年 オイルショックにより新規受け入れを原則停止
→既に働いていた労働者が家族を呼び寄せ定住傾向に
- 1980年代 定住する外国人の統合、帰国促進を行うが効果は限定的
- 80年代後半から90年代は、旧ソ連などからの庇護申請者、ドイツ系帰還移民が増加

ドイツと外国人労働者②

- 2001年 改正国籍法施行

多重国籍の採用、出生地主義(ドイツで生まれた外国人の子にドイツ国籍を付与する)の取り入れ、帰化申請を容易に

- 2005年 移民法施行

高資格の外国人に無期限滞在許可、経済への貢献が認められる自営業者の受け入れ緩和、テロ等の危険がある外国人の入国拒否・国外退去等

- 2006年段階で人口の約8%が外国人、そのうち4分の1がトルコ人であった。また、上記の外国人の他に移民の背景を持つドイツ人(ドイツで生まれた移民2世)が約9%であり、合わせて人口の20%近くを占める。

- 積極的に受け入れた高度経済成長期はあくまで一時的な労働者を想定していた。
= 必要な分だけ働いてほしかった。
- はっきり移民受け入れの姿勢を定めずあくまで「外国人労働者」としてとらえてきた。
- そのため、外国人労働者・その家族に対する教育や雇用など、ドイツ社会で安定的に暮らすための支援に乏しかった。
- 現実的に、外国人労働者、二世、三世の割合が大きくなったことで、事実上移民国家となった。

新移民法に関する議論(2018年)

高齢化と労働人口減少により、記録的な人手不足

「ドイツ労働省によれば、景気拡大が長く続いているため、ドイツでは求人件数が過去最高の120万件に達しており、失業率は1990年の東西ドイツ統一以降で最低の水準にある。

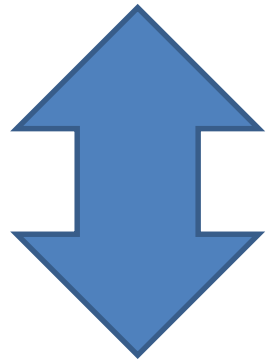
ドイツ経済研究所(IW)によれば、人手不足による経済に対する悪影響として、年間生産が最大0.9ポイント低下しているという。」(ロイター REUTERS 2018年9月25日「焦点:ドイツの新移民法、「メルケル首相の大きな賭け」<https://jp.reuters.com/article/germany-economy-immigration-law-idJPKCN1M503K> 2019.8.25)

ソフトウェアエンジニアリング、建設や教育、幼児保育や高齢者介護の分野で人手不足が影響

人手不足の解消



「いい外国人には来てほしい」



外国人労働者受け
入れ拡大路線の日
本の今後に通ずる

シリア・イラク等の難民増加、犯罪、テロ



「悪い外国人には来てほしくない」

ケルンのモスク論争

2007年 2000人を収容できる欧州最大級のモスク建築計画を発表 → 近隣住民の反対運動が起こる

トルコ人住民側

ケルンには美しい大聖堂がある。イスラム教徒も権威ある場所で祈りをささげたい。
イスラム文化を尊重し、寛容になってほしい

ナチスの迫害を受けたユダヤ人作家ラルフ・ジョルダノ氏が建築反対の立場を表明

女性の地位を認めないトルコ人の慣習や伝統は、ドイツの憲法の原則である多元主義や民主主義と相いれない。

- 8年の建設期間を経て2017年に開館。2018年に記念式典の開催
- 記念式典にはトルコのエルドアン大統領も出席
- モスク周辺ではエルドアン大統領への反対派と賛成派がそれぞれデモを開き、警官隊が出動した。

「ケルン市内中央モスクに対する爆破予告事案の発生について」
在デュッセルドルフ日本国総領事館

発出日時：2019年07月09日 21:30

【ポイント】

● 警察の発表によれば、本日午前10時25分頃、ケルン市内エーレンフェルト地区に所在するトルコ系のイスラム教団体(DITIB)が運営する中央モスク(※)に対する爆破予告があり、現在、警察がモスク内から人を避難させ、交通規制を設けて爆発物の見索に当たっています。

外務省海外安全ホームページ <https://www.anzen.mofa.go.jp/od/ryojiMailDetail.html?keyCd=73806>

2019.8.25



ビール
飲んで飛
んだだ
け! ?



デュイスブルグ

- 石炭資源があり工業都市として発展
- 1980年代、石炭・鉄鋼産業衰退に伴い失業者が増加「ドイツのラストベルト」
- 市内のマルクスロー地区はトルコ移民の集合地帯であり、失業率の高さや老朽化した住宅が多く治安が良くない。(約4割弱が外国人、そのうち7割がトルコ人)

→ マルクスロー地区の再開発(90年代)

交流施設の整備、建物ファザードの美化、工事を通じた失業者の雇用創出、中小企業支援、企業誘致により状況はやや改善

- 一帯一路政策の影響により、経済振興

デュイスブルグのモスク

- 2008年に開設
 - ケルンのモスクができるまでドイツ最大の規模
 - ドイツ人とトルコ人の垣根を払うことを目的とした。
 - ムスリムだけでなく、キリスト教会、地元商業者など多様な組織からなる顧問委員会の議論を経て着工
 - 外から内部が見やすい構造
 - 公民館機能を持たせ、宗教施設としてだけでなく地域の施設として使用できる
 - 定年退職後のトルコ人による内部のボランティアガイドツアー
- 建設にあたっては大きな反発なく、地域に受け入れられている。

統合の難しさ

ドイツの移民政策＝統合を目指す

統合＝移民(マイノリティ)は文化的なアイデンティティを保ったまま、多数派社会の一員としての経済的・社会的・政治的生活を営めるようにすべき、という考え(フランス的「同化」イギリス的「多文化社会」のいいとこどりを目指した。)

→ ドイツ語のできない外国人に対し、ドイツ語習得のためのコースを設置

「ドイツ語ができなくてもコミュニティの中で生活できてしまう」
「習得コースの授業レベルについていけずドロップアウトしてしまう」といった問題あり

学歴社会のドイツにおいて、言語・学歴のハードルがある外国人は職を得ることが難しい

まとめ:ドイツから学ぶこと

- 「統合」の姿勢を打ち出したが、ドイツ語ができないままドイツに定着した外国人も多く、浸透は難しい状況も
- 異文化を許容する、国民のコンセンサスはできていない。
- 「よい移民」の労働力が必要な状況は今後も続く。



- ①都合よく労働力としてのみ活用しようとすることはのちの問題を大きくする。
 - ②移民が安定的な雇用、生活状況を得られるような支援は不可欠
 - ③「異文化を受け入れる」覚悟が必要
- 日本はドイツが50年近くかけ歩んできた同じ轍を踏もうとしているのではないか？